

第6編 教育委員会委員長あいさつ

＝子ども読書週間に寄せて＝



三次市教育委員会
委員長
沖田 稔

今年も子ども読書週間（4月23日～5月12日）をむかえた。子どもの読書離れがいわれて久しいが、現況はどうなのだろうか。毎年、県内全ての小学校5年生及び中学校2年生を対象に実施されている「広島県基礎基本定着状況調査」結果（下の表はその一部）から、三次市の子どもたちの実態を探ってみたい。

学年	県市別	年度	1ヶ月に読む本の冊数			1週間の家庭での読書時間		
			読まない	3冊未満	3冊以上	読まない	1時間未満	1時間以上
小学5年	広島県	H22	7.8	23.6	68.6	17.7	38.5	43.8
		H19	11.5	31.0	57.5	22.9	41.9	35.2
	三次市	H22	5.4	20.2	74.4	18.6	40.2	41.2
		H19	14.0	30.4	55.6	30.2	44.4	25.4
中学2年	広島県	H22	16.9	49.8	33.3	34.6	34.1	31.3
		H19	20.7	55.3	24.0	38.6	34.8	26.6
	三次市	H22	13.0	51.9	35.1	38.9	32.3	28.8
		H19	18.4	60.4	21.2	44.0	32.9	23.1

注）広島県：広島県平均 三次市：三次市平均 単位は% 各欄上段太字は平成22年度，下段細字は平成19年度データ

この表からは、次のようなことがうかがえる。

- 1 県，市いずれも中学校2年生の読書量（読書冊数，読書時間）は，小学校5年生のそれと比べて少ない。（別の調査によると高校生の読書量はさらに減少する。このように学年等が上がるにつれ読書の量が減るのは全国的な傾向である。）
- 2 平成19年度の5年生は，平成22年度には中学2年生になっている。このことに注目し，データをみたい。県全体で19年度の5年生は1週間に家庭で本を読まない者の比率が22.9%であったが，中学2年生になった平成22年度には34.6%であり11.7ポイント増えている。
一方，三次市の場合は30.2%から38.9%となり8.7ポイントの増加にとどまっている。また，5年生だった19年度の県と市の数値はそれぞれ22.9と30.2（7.3差）であったが，22年度の2年生時点では，それぞれ34.6と38.9で，その差が4.3に縮んでいる。
- 3 平成22年度における1ヶ月に3冊以上読む者の比率は，三次の5年生，2年生いずれも県のそれを上回るとともに，19年度に比べ大きく増加している。また，22年度の三次の5年生については，19年度と比較し，家庭で読書しない者の減少と1時間以上読書する者の増加が，ともに著しい。

以上のことから三次市の子どもたちの読書は，望ましい方向に進みつつあるとあってよからう。永年にわたる地域の皆様による読みかたりや市内8図書館での月々のおはなし会，各学校における日々のことばの教育の推進等々が功を奏し，やっとなが花が開き始めたものと思われる。多くの方々の熱い取組に対し，改めて心から敬意を表したい。そして，これを機に子どもたちの読書がさらに盛り上がるよう，例えば，小・中学校の国語部会の先生たちが中心となって図書館やPTAとも連携し，「三次の子どもたちにすすめる〇〇冊の本」を紹介するなどのような，21世紀を生きる子ども達へ夢をプレゼントする機運が醸成されることをひそかに期待するのは私だけだろうか。